

1 尿沈渣検査鏡検法の内部精度管理
2 について

3
4 ○石崎大輝 伊瀬恵子 内本高之 澤部祐司
5 野村文夫 (千葉大学医学部附属病院検査部)

6
7 **【目的】**尿沈渣検査はおもに鏡検法で行なわれているが、ばらつきが大きい検査といわれている。今回、
8 施設内の精度を高めるために鏡検法の内部精度管理
9 を行い、その有用性を検討した。

10
11 **【方法】**1. 対象:1) 鏡検用コントロール(以下 Cont)
12 2) 当院患者尿 2. Cont 作製方法: 赤血球と白血球
13 および円柱を固定後、生理食塩水に浮遊して、10ml
14 ずつスピッツに分注し試料とした。尿沈渣は、日臨
15 技の尿沈渣検査法 2010 に準拠して作製し、鏡検経験
16 年数1年未満から31年までの技師3名で10視野の
17 平均値を解析した。 3. 検討方法: 1) Cont による
18 精度管理:2012年5月(以下サーベイ5月)と10月(以
19 下サーベイ10月)の20日間で日差再現性を比較した。
20 2) 患者検体による目合わせ: 当日提出された尿沈渣
21 を3名で算定し比較した。

22 **【結果】**1. サーベイ5月のCVは赤血球5.3~15.5%、
23 白血球8.7~15.4%、円柱8.9~17.3%、後半10日
24 間ではすべてでバラツキが小さくなった。サーベイ
25 10月では赤血球のCVが6.5~9.1%、白血球7.1~
26 10.4%、円柱8.2~11.0%であり、後半10日間では
27 赤血球3.8~5.5%、白血球4.9~7.0%、円柱6.6~
28 7.4%となった。2. 患者検体による目合わせ: 患者尿
29 沈渣を3名の技師で成分算定を行ったところ、1ラ
30 ンク差の範囲で検出できていた。

31 **【まとめ】**Cont を用いた鏡検法の赤血球・白血球・
32 円柱数算定の日差再現性は、CV5~18%であったが、
33 精度管理を継続することで技師間のバラツキが小さ
34 くなった。また、定期的に患者尿沈渣の目合わせを
35 行うことで技師間差を是正することができ、尿沈渣
36 検査の精度向上に貢献すると考える。

37 連絡先: 043-222-7171(内 6210)

38
39